



校友・同窓が語る「同志社100周年」への展望(1)

出席者 (写真左より) 田島 弘一郎 (同志社理事長、東不動産社長)
 津下 満寿子 (同窓会東京支部長)
 秦 孝治郎 (同志社理事長)
 原田 健 (同志社評議員、校友会東京支部長)
 平山 秀雄 (電波新聞社社長、校友)
 クルト・ブラッシュ (ケー・ブラッシュ商会社長、校友)
 司会 大江 直吉 (同志社本部庶務部長)

新島 襄とデモクラシー

司会 本日はたいへんお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

同志社は四年後に百周年を迎えますが、この際いままでの同志社がさらに一段と飛躍、発展して、次の完成をめざしてがんばる時期にきているのではないかと思っております。

まず同志社の教育の問題についてお話を願いたいと思いますが、同志社の教育はご存じのように、キリスト教主義の教育ということを中心にして、また、創立者新島先生の教育理念を基にして、取り組んでいる訳であります。すが、なかなかむずかしい問題をかかえております。

ここにいらっしゃる先輩の方々も、それぞれ同志社教育をお受けになって、社会で活躍をされておる先輩ばかりでございますので同志社教育についての印象であるとか、あるいは今後同志社をどういうふうな形で発展さすべきかというようなことについての忌憚ないご意見を伺えれば、非常にけっこうだと思っております。

最初に東京の校友会支部長の原田先生か

ら。

原田 同志社教育の教育は申すまでもなく新島先生のキリスト教主義の教育です。先生のおっしゃっているキリスト教主義の教育というのは、先生がアメリカのデモクラシーの発祥の地であるニューヨークで、十年間研鑽を積まれ、そして帰ってきてキリスト教主義教育を敷きたいとおっしゃったんです。これは一般の人にわかりやすいいえば、私はキリスト教に基づくデモクラシーの教育じゃないかと思っています。

日本は敗戦の結果、民主主義が栄えてまいりましたが、実は私は現在日本のデモクラシーは、十分に国民に理解されていないんじゃないか、あるいは大いにはき違えられているんじゃないかという感じがしてならないので



原田 健氏

す。人間を尊重しなくちゃいかんということまで子どもをしつけることをしなかった結果、二十数年たってゲバ棒を持って乱暴をやったり自分だけよければいいという自己中心主義に陥り、社会はどうなってもいいというような社会連帯性が全然なくなってしまう、いまの日本は非常な精神的危機に瀕しているように思えます。

同志社の使命というのは、新島先生のおっしゃるほんとうのデモクラシーを教え込み、そして人間形成をやるということにあるんじゃないか。ですからほんとうのデモクラシーとはなんぞやということをもっと真面目にわれわれは研究し、そしてそれをこどものときから教え込むということ。

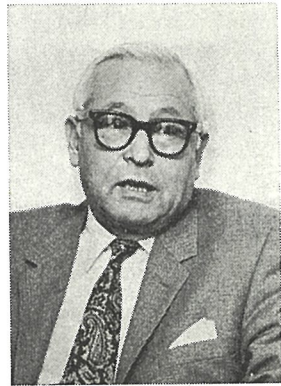
幸いに同志社には幼稚園がありますが小学校が欠けているので、ぜひ小学校もつくってほしいと思うんです。それで一貫教育をやっていたきたいというのが私の平素の念願でこれが完成されるなら、日本における同志社の存在価値は非常なものになりはしないかと思っています。

司会 ブラッシュさんは私の三年先輩で同志社にいらっしたと思うんですが、同志

社中学で教育を受けられたり、また社会に出て同志社を御覧になって、同志社教育というものの印象などを……。

宗教心の養成

ブラッシュ 私の学生時代はあまり勉強しなかったほうで、教育について私からお話するということはおかしなことですけども、教育という問題に対しては、父が教授であつたためにいろいろ言われました。おまえは何になってもいいけれども、先生と牧師さんだけにはなつてはならない。そのとき、私はまだ父の言ったことが理解できなかった。どういう訳で父がそういうことを言ったのか。いまになつてわかつたことは、商人であれ、なんであれ、とにかく教授と牧師さんは人を導いていく。人間として導いていくだけの力がなければ、先生と牧師さんにはなつてはならないという意味に父が言ったのではないかと思います。その面から申しますと同志社の教育というものも、学問と教養とははっきり分けてそれを徹底させないと……。学問というのは非常に大切なものであつて、一つの学問に一心するということは必要でございす



K・ブラッシュ氏

けれども、私から見れば、同志社というよりも、日本において欧米と比較した場合に、学問は非常にすばらしいけれども、教養という面において、社会教育がなされていないという欠点があるんじゃないかと思います。

だからもしも同志社としてこういうことができればぜひお願いしたいんですが、幼稚園に行っておられるこどもの両親を学校に呼んで、家庭でこういう教育をしてほしいということ伝えて、そういう教育をされておるかまたそのこどもから聞きとるといふうにしていれば、私は一年もすれば、欧米と同じような社会教育ができてしまうんじゃないかと思います。いままでの家庭はあまりにも学校まかせである。学校はどこまでも学問が主になって、こどもの教育というようなものとは

いぶ離れているという感じがします。だからそこを学校と家庭とでうまくつりあいをとる必要があると思います。そういうことをやれば、それがまた同志社の特徴にもなるんじゃないかと私は思います。

そしてクリスチャンの問題でございますけれども、さきほど原田先生がおっしゃったように、同志社の方が全部クリスチャンになる、あるいはなっていたかどうかということとは不可能なことであります。クリスチャンでなくとも、少なくとも宗教心を皆に持たす。この宗教心を持たすということは、どの宗教でもいちばんの目的であって、そこに人間としてのほんとの教育ができるんじゃないかと思えます。だから同じキリスト教でも、キリスト教ということにこだわらず、人に宗教心を植えつけるという気持ちの教育をやっていた方がいいと思います。

もう一度、原点に返って

司会 それじゃ平山社長さん、学生を採用になったり、また社員を教育していらっしゃる、そういう立場から、教育の問題について

あるいはまた同志社で勉強されたような教育の問題と関連して、何かご意見を……。

平山 私の今まで過ごしてきた人生というものを考えますと、同志社で受けた教育というものは、自分が仕事をしていく上においても、世の中に処していく上においても、少なからず影響力を持つておるように思います。

学生時代に新島先生の、「良心を手腕に運用する、人物になれ」とか、またチャペルで、いろんなかたがたから精神訓話を聞きましたけれども、そういうときに受けた教訓というもの、知らず知らずのうちに私が送ってきた人生の上において、また人を使う立場に立たされて、わずかながらにも生かされているのではないかと考えています。

同志社の教育というものは、道徳教育の面において、すぐれたものを持っている。勉強のほうはどうも官立学校の出身の方々に比べますと、ちょっと遜色を感じるんですが精神面においての同志社の教育というものは、りっぱな教育だと思います。こういうことは学校にいたあいはあまりわからないんですが学窓を出まして、また最近になりまして年を

とってまいりますと、ほんとうに新島先生の偉さというものが、わかってまいりました。

最近の学校ではどんな教育をやっているのか知りませんが、一様にどの会社に行っても企業内教育がたいへん盛んです。社会に出るまでの長い期間、学校でもう少し精神面の教育をやっていただかねばと思いますし、ものごとを「批判」する教育も必要でしょうが、「批判」の前に人間として、また仕事をやる者の立場としてやらねばならぬたくさん問題がある。それをやらずして「批判精神」だけが旺盛である。人間としてやらねばならぬことをもつと教えていただくことが必要だと思います。

今の姿をみていますと学校でやってもらいたいことを企業内で折にふれてやっているという事です。これをこまめにやっていられる会社は業績もアップしていきまして、やらない会社は秩序が保たれていないし、業績も伸びてないはずす。

「教育」の波及効果というものは一国の経済や社会福祉の上に大きな、はかり知られざる影響を与えるものです。同志社として、創立百年を近く控えて現状を振り返り、でき得



平山 秀雄氏

べくんば、もう一度、この百年ということを経験機にして、原点に戻って、何かがあってもいいんじゃないかという感じを持っておるわけなんです。

みずからの手にむちを

司会 同志社の卒業生は、政治界とか、あるいはまた芸術の世界だとかいうようなところへの進出が、たしかに弱い面を持っておりまして、今後は、そういう方面へもっと積極的な進出を、同志社もやりたいものだという意見がずいぶん出ておる訳なんです。

田島さんは理事でもいらっしやいますし、また同志社のことは非常によく御存じなのでひとつご意見を聞かせていただきたいと思ひ

ます。

田島 同志社教育の特徴ですけど、同志社は新島襄が唱えた「良心を手腕に運用する人物」を社会に送り出すという使命を持った学校ですから、他人を蹴落として辣腕をふるうような敏腕家を養成する学校ではなくて、教職員がみずからの人格と温情を注いで、学生・生徒を指導して、他人への思いやりと、助け合いの気持を持ち、かつ意思強固な人格形成をめざす教育というのが同志社の特徴ではないかと思うんです。

私自身中学は東京府立の学校だったのですが、そのせいか、同志社へ入学した直後、教職員がみんな親切な、暖かみのある先生が多いなという印象が強かったことを今も覚えています。公立と私学の違いがすぐに感じられました。この特徴が現在も継続していることを望んでいるのですが、はたしてどうでしょうか……。

それから次にキリスト教主義の教育ですけども、同志社は大学はもとより、各学校とも入学案内にキリスト教を徳育の基本とする旨が明記されているはずす。学生生徒はそれを承知の上ではいつてきたものばかりのは



田島弘一郎氏

ずですから、したがって遠慮することなく、キリスト教主義教育をもっと強化実践すべきではないかと思うんです。精神訓話とか倫理はもちろん、キリスト教概論というようなものも必須科目にして、各学部、それを実践させたいんだがなあと思っています。

最近の卒業生は、キリスト教について、全然なにも知らないという人が非常に多いようですが、クリスチャンにならないまでも、せめて同志社を卒業したものは、キリスト教の理解だけでも持っている程度にはなっていると思うのです。そういう授業があれば他の私学と同じで、同志社の存在理由がだんだん薄れてしまいます。新島先生はみずからの手をぬいて、おのれにきびしくするということを教師・学生に身をもって教えます。

だが、四十年前に私が入学したころは、さきほど申し上げたように、教職員の学生への温情がとても豊かであったという記憶があるんです。現在ははたしてどうでしょうか。将来も教職員の高潔な人格で、暖かみのある指導をしていてもらいたいと思っています。

司会 教育のプログラムを組むとか、あるいはキリスト教の教育を学内で徹底する方法につきましては、ひとつそれぞれの学校長さんとも相談いたしまして、それが徹底できるようにいたしたいというふうに思っております。

同窓会から津下さんがおみえになっていきますので、同志社の女子教育とか、その諸問題についてひとつご意見なり、また今後の同志社の女子教育の進むべきご意見がございましたら、お話し願いたいと思います。

スピリチュアルな価値観を

津下 同志社の卒業生が世の中に出ましても物質的なものよりも、スピリチュアルな価値観を持った仕事ができるような卒業生を送り出して、そして同志社の者も、先輩もみんなそれを喜ぶような学校であってほしいという

ことをすごく感じるのでございます。世の中は国内も世界も大きなプロブレムに満ちておりますけれども、そういうものにチャレンジしていけるような人間が、同志社で造られるというような教育を同志社が施してくれたら新島先生はたいへんお喜びになるんじゃないかと思います。

人生というのはけっきょく人間と人間の接触ですから、さきほどブラッシュさんがおっしゃったように、人間は生まれ落ちてから、もうすでに小さい家庭という社会の中に育ちそして学校とか、町とか国とか世界という、大きな社会の中にどんどんはいっていくのですけれども、その人間の接触の仕方、そして社会に対する関心、そういうものを植えつける学校であってほしい、そういうことを非常に感じるのでございます。

もちろんキリスト教の教育、これをいけばん大事にしたいだきたいと思いますけど。これも私、さっきブラッシュさんがおっしゃったことに共鳴するんですけど、ガリレオが「神なき知育は、知恵ある悪魔をつくる」と言いましたように、やはり宗教心を植えつける、これが非常に大事なことで、キリスト教



津下満寿子氏

を強いるということは、大きい反発心を起こさせるかもしれませんけれど、宗教心を与え、という意味で、キリスト教の教育をして、そしてクリスチャンがたくさん出てくれればこれは非常にいいことだと思えます。仏教の家の人もたくさんあるので、とにかく宗教心をキリスト教を通して植えつけるという教育を施していただいたらいいんじゃないかと思えます。私たちは若いときに同志社で、毎日礼拝に出席しなければなりませんでしたが、そしてそれはめんどくさくて、ときどきは遅れてきたり、サボったりするひともあって、ミス・デントンに追いかけ回されましたけれども、あのときに与えられた力は大きい。意味を知らずに歌っていた讃美歌、読んでいた聖書というものが、長い長い人生をつ

よくささえた、非常に苦勞の多かった人生をささえてくれるようになったということは、みんなが話していることでございます。このしあわせをこれからの人たちにも与えていただきたいということを私たち大きく感じるのでございます。

司会 非常にむずかしい問題であると思うんですが、たしかにキリスト教を通して宗教心を植えつけるべきだというのは、同志社でもそういう礼拝を毎週水曜日に持っておりまして、それから引き続いてまたいろんな人の講演をしていたりして、そういう問題にも取り組んでいる訳なんです。やっぱり強制的なものがないと、あまり自由であるという点については、なんか若いときには問題があるようにいつも思うわけです。

秦 私、あるいは住谷総長がいちばん困っておる問題は、幼稚園の入園式と卒園式。これに総長なり、理事長があいさつする訳なんです。総長は絵がうまいもんですから、あらかじめこどもに話するのに、ちゃんと絵を描いてもらえるんです。私は平たいことばで、四才ないし六才ぐらいのこどもがわかるようなこと、ならびに父兄の方に同志社を紹

介する訳なんです。これは非常にむずかしい。

私はいつも父兄の方にこう言っておるんです。いままでは温室の中で、あるいは家庭オナーリーの中でこどもさんが育ってきたんだが今度は、社会生活にはいる。そうすると、人と人との関係、あるいはこども同士の関係、ここにはいつてくる。そのときにいちばん大事なことは、やはり最初の印象である。私は学校が内面的な、精神的な、あるいは宗教的なことをそう説明する訳にはいかなないから、せめて環境をよくする。それがためにわざとスペースをあけています。ほんとうからいえば、あの土一升、金一升という高価な現在の今出川学園だけを取りあげましても、非常に尊いところでございますけれども、敢えてヤードにする、あるいは庭にする、あるいは木を植えて、わざとスペースをこしらえる。そして同志社が他の学園とどう違っておるか。それがすなわち新島先生が施しになった、あの相国寺のほりをまず第一に同志社らしくするということで努力しておるから、どうぞこの雰囲気味わってもらいたい。そしてこどもさんもまた雰囲気によって教育を受け



秦 孝治郎氏

る感化を受ける、啓蒙されるというようにやっていただきたい。そして縁あってこの同志社に関係があったんだから、やはり同志社をかわいがってもらいたい。同志社を愛してもらいたい。同志社を好きになってもらいたい。そしてやがてそれが、現在は小学校がなければ、一たん六年間他の公立の小学校に行かれても、再び中学校、高等学校、大学にもう一べん帰ってください。

こういうあいさつを私、いつもするわけなんです。

はたして現在の同志社が、キリスト教を看板にしておられるけれども、ほんとうに内面的にそれに裏づける努力をしておるか、実績を持っておるかというようなことをいつも自問自答したり、反省したりしておるんですが、私

は実際その点は、現在危機に瀕しておるといふふうに反省しております。われわれのような老骨が敢えて重席にありますことは、せめて次の時代に、なんとか同志社の遺鉢を、いものをここに残しておきたい。もうわずか四年たてば百周年でございしますが、やはりこの百周年を基点にしてと言いますか、そして現在置かれておる同志社——あるいは社会からあるいは世界から問われておる同志社が、ほんとうに同志社らしいものを次の時代に残しておきたい。現在クリスチャンである人がパーセンテージからいうなら寥寥たるものではたしてキリスト教主義の教育が置かれておるのかどうか。やはり同志社は、せめて宗教的な教育がほんとうに実践されておるような状態でいかなきゃならん。それがためには、やはり今出川校地のみならず、岩倉においてもになりまして、私が申しますように非常にスペースがありまして、父兄の方が下見に来られまして、りっぱな学校ですねと言われるんです。ただ誤解を受けますことは、ああいうりっぱな建物を建てておりますと、非常に儲かっておるといふ誤解があるんです。そんなところがちょっと私ども残念なんです、

あれで精一ぱいやっておって、決して儲かっている訳じゃないんですが……。

主義主張のある学校

司会 いろいろ同志社教育についてのご意見を伺った訳なんですけれども、同志社教育を徹底させると言いますか、人間の魂に刻み込むにはどうしたらいいかというふうな問題になると思いますが、そういうことをやるには、どういうふうなことをやればいいのか、どういう教育の内容を改造するかとか、変革をしていったらいいかという問題についてご意見がありましたら、もう少し掘り下げていただければ非常にけっこうだと思います。

原田 さつきブラッシュさんから宗教心の養成ということがありましたが、日本でいわゆる大正デモクラシーを提唱された吉野作造博士は、新島先生の高弟海老名弾正の門下生で、博士のデモクラシー論は、「デモクラシーはキリスト教から発生したものだ」ということを言っておられますが、やはりキリスト教に対する理解があればこそ、私のさつき申し上げたデモクラシーをいちばんよく理解されるんじゃないかと思えます。だからクリス

チャンにならなくても、少なくともキリスト教に対する理解が必要であることはもちろんです。

さつき田島さんが、官学と私学との区別をおっしゃいましたが、私は実は一昨年の「同志社時報」(33号)に、「回想五十年」を書かされた中に告白をしたように一身上の事情から、同志社で中学を経て、官学に奔ったのです。その結果、私学と官学の違いを自分でつくづく体験して、自分が同志社で教育を受けたことは実に幸いだったということを痛感しました。

官学とか公立学校は政府なり地方の団体がほついてもまかなってくれるのに、私学こそはほんとに自分たちの学校で、自分たちが学校をサポートしていかなくちゃならないと



大江 直吉氏

いう愛校心をわれわれにもたせる。私はそういう面からいって、アメリカではご承知のとおり、私学のほうが盛んであって、また優秀であるのは、その卒業生が一生懸命自分の学校として盛り立てていっているからなのです。

それでさつきから学校が儲かるのかなんとかいうお話がありましたが、日本には何らの主義主張もない、ただ金もつけだけやっている学校がだいぶあるそうだが、そんなところとわれわれの同志社は非常な違いで、りっぱな主義と理想のある学校で、同志社を将来成功させるか、失敗させるかは、われわれ卒業生の責任です。その意味からいえば、先立つものは金という訳じゃないですけれども同志社としては、秦君らによって基金がだいぶできたようですが、しかしまだなかなかこれだけじゃ足りないんであって、ともかくひとつりっぱな基金を持つこと。

それからもう一つは、私学振興というか、私学の補助を政府に要求したいのです。オックスフォード、ケンブリッジは私学ですが、ほとんど七〇％は英国政府が金を出していますし、それからアメリカのエール、ハーバードも非常な金を持っているが、それに対して

もアメリカ政府はそうとう金を出している。

日本の大学の七〇％は私学がやっているんですが、日本の政府としてはどうしても、もっと金を出してもらわなくちゃいかん。それで強固な財政的な基礎ができれば、学生の数はふやす必要はなくなると思う。学生が多すぎれば、同志社精神をみんなに浸透させることもできません。それに寮生活をエール、ハーバードがやっていますが、全寮制度とは言わなくとも大きな一つの寮生活の設備をやっていただければ、同志社精神が鼓吹できはしないかということのをわれわれは夢見てるんですが。同志社の一つの財政的な基礎を、理想に近い教育を、ひとつやっていただきたいということを希望します。

司会

寮は大学のほうは五百人ほどはいれる寮を持っている訳なんです、大学だけとってみますと、現状では学生運動の拠点になる可能性がありまして……。同志社はそうじゃないんですが、東京のある大学の寮なんかは、外の学生が泊まったりなんかしているというようなことがあって、寮生活はやらなきゃいかんと思うんですが、どういうふうな新しい寮をつくり直すかということです。その

辺のところに、一つの大きな問題が、将来出てくると思うんです。

偉大なる教育者の

人格にふれる

津下 同志社では偉大なる教育者の人格に触れるということができますでしょうか。

秦 むずかしい問題になりましたね。と言いますのは、学者と教育者は違います。

津下 教育学の学科というものはあるのでございますか。

秦 サイエンスとして教育学科というものはある。ところが教育学科は必ずしも教育者に触れるというのとも違ふ。

ブラッシュ そうすると教育者を教育しなくちゃならない。

津下 私たち学校にありましたころ総長は海老名弾正先生でした。また、世界からりっぱな方がいらっしやいました。礼拝堂でしてくださったお話で、私たちの脳裏に残っているものがたくさんございます。私、長い人生を歩んできて、あの若いときにそういう人格に接したということが非常に価値があったと思われまふ。

他の学校のことを出してたいへん恐縮でございませうけど、主人が理事をしている玉川学園という学校がございませう。そこは小原園長というのが小学校から大学まで、毎週一回ずつ、生徒にぜんぶ礼拝堂で接触なさるのでございませう。その感化というのが偉大なるものなのです。このあいだ玉川で私が教えていたときの生徒が、エジンバラで文学を勉強していまある大学の英文学の先生をしているんですけど「あまりに自分が幸福で平凡なライフを送っているのが申し訳なく、私はアフリカか東南アジアへ行つて働きたい。高校時代に小原先生がおっしゃったことが、どうしても耳について、自分はこんな安閑とした生活はできない」、と言っております。そういったような感化があるのでございませうね。

玉川学園のモットーは、人生のもっともつらい、いやな立場をみづから率先して担当せよというのですけど、そういう教育をしていらっしやるのが、こどもにヒシヒシといっている訳です。やはり出世主義の教育ママであるよりは、何かスピリチュアルな価値観のある仕事をするようなこどもを育てられるようなおかあさんを、同志社で造ってほしいと

いうことをつくづく感じますけれども、そういう、人格に接するような教育を同志社社でそれが同志社の特徴であつてほしいです。

ブラッシュ いまスピリチュアルということばを使われたのですけど、私は日本では精神に関する問題が非常に弱いと思う。日本の精神的というものの意味と、ヨーロッパのスピリチュアルというものと、ことばは同じようであつて、違ふ訳です。だから精神問題という場合には、やっぱり津下さんがおっしゃったように、スピリチュアルということばを使ったほうが、ピンとくる訳なんです。

ドイツで小学校に匹敵する語は国民学校ですけれど、国民学校では宗教は義務教育です。だからその時間だけがカソリックとプロテスタントとに分かれる訳です。国民学校では、私はプロテスタント、あの人はカソリックだとはっきりしています。それにしても日本と同じように、いまは宗教的な面に対しては、非常にだれてゐる。これを積極的に行ふにはどういふふうにしたらいいか、——これが非常にむずかしい問題なんです。

秦 いまここにお集まりの方は、津下さんのおっしゃった「スピリチュアル」といいま

しても、あなた（ブラッシュ氏）のおっしゃったようなや宗教的な意味にとれるんですが、大学の学生あたりは、「スピリチュアル」と言われたら、やはり精神的、それも宗教を抜きにした、倫理というぐらいいしからない。そこがわれわれの教育を受けたありがたさだと思いますが、それと今日同志社の教育を受けておる学生とは非常な違いがある。いま同志社大学で、外の大学より少しまだと思うことは、アッセンブリー・アワーと言いまして、水曜日なら水曜日に二時間ぐらい講演をする。その前にちょうど三十分ばかりチャペル・アワー——これは宗教オンリーでやる訳です——をやっておりますが、集まってくる人が非常に少ないんです。そのときには、他の学科はぜんぶ休んでいるのですが、先生自身がその時間にはゼミナールをやってみたり、プライベートに話し合ったりすることに利用するようなことをされて、はなはだ残念に思います。

司会 いま理事長がおっしゃったように、初めの三十分ほどは宗教的な礼拝をやる。あとの一時間あまりは、いろんな一流の人々の話を聞く。そういう企画を立てておりまして

東京からも呼んだり、関西からも呼んだり、前には将棋の升田八段とか、あるいはまた芸能人で非常に踊りのじょうずな人に来てもらうとか、あるいは作家にもおいでを願う。そういうことは、いろいろやっておる訳です。実際はいろいろな有名な人のいい講演でありながら、わりあい学生が来ない。学生の層が多様化して、ぼくが昔やっていた時は、武者小路実篤先生が来られると、栄光館がいっぱいになりましたけど、趣味が違うのか、学生が来ない。そういうようなことが実際あるんです。

原田 玉川学園の学生数は全部でどのくらいですか。

津下 どのくらいかちょっとわかりませんが、クリスマス礼拝なんかでしたらはいれませんが。ほんとにいっぱい。何千人といっている講堂で、中学とか小学校を別にしたりしてもはいれませんか。というのが、あそこには私、やっぱりテクニクがあると思うんですよ。非常にいいセレモニーをして、そしてりっぱなコーラスをするとか、全員がハレルヤコーラスを歌うとか、ベートーベンの第九シンフォニーの歌が歌えるとか、そういったも

り上がりが必要です。小学生から大学生まで全学生と一緒に歌えるレパートリーがいっぱいあります。それがワッツと歌う。その雰囲気はたいへんなものなんです。

それからまた、田辺がどういう所か私、存じませんが、ああいう山あり川ある所なら非常にいい教育ができるんじゃないかと思えます。こどもを自然に接触させて、自然から宗教心や他の精神的なものをたくさん受けられると思うんです。それからまた外国のコードもたちと接触させたり、交歓したりというのは、宗教とはまた違った価値の見い出せるものだと思います。なにかいろんなふうにいるんじゃないでしょうか。

秦 いまおっしゃった、現代的といいますが、昔やったようなまっこうくさいものではなくて、やはり現代化した新しい形式の宗教的な教育、あるいはまた雰囲気、いま津下さんがおっしゃったように玉川学園がやっている。玉川学園はたぶん五、六千人じゃないですかね。

原田 多かったですね。

秦 同志社大学は二万人でしよう。これはいろいろわれわれも考えていますし、大学長

なんかも考えるんですが、二万人というマス教育を……。

津下　ですから、あんまり多すぎますね。

現代の目で見ると

ブラッシュ　けっきょくいま先生がおっしゃったように、アップ・トゥ・デイトでなくちゃだめなんです。それは何かというと、やっぱり現代の目で見ると見るといった以上は見ると見られるものがなければならぬ。この二つがあつて、見るということが成り立つ訳です。見るものが主体でなければならぬが、必ずしも、それは主体であるとは言えない。見られるものが見るものを見るかもしれない。そしてその見られるものが必ず固体であるとも言えない。それは人間性であるとか、あるいは非常にアブストラクトなものを。ものを見るという教育はあまりやっていないんじゃないかと思ひます。

ドイツのエルランゲンに人間学という学問があつて、同志社でも一年ほど勉強に行かれた先生があると思うんですが、そこで新しいヒューマニスティックな教育——私はどういうものか存じませんですけども——そういうもの

を学校の科目として取り上げて、それがいいものだとすれば、やはり採用すべきじゃないかと思ひます。ヒューマニスティックということですが、私はこれについていろいろ研究したのですが、ロマネスクからルネッサンスにはいつて変わってきました。そしてまたそれがバロックになつて変わります。そして、啓蒙時代にまた変わってきます。だからヒューマニズム自体もことばだけであつて、内容が変わつてゐる。クリスチャンというものもクリスチャンということばは変わつてないけれども、内容が変わつてゐる。やはりその時代に合つたものでないと……。ヒューマニズムの変わりごと、クリスチャンというものの変わりごとが平行してゐるはずなんです。それやはり取り上げなくちゃ、近代の見方にならなと思ひます。そういう研究は、神学部の方でやるか、あるいは文学部のほうでやるということをやらなくちゃならない。

国際感覚を植える

秦　玉川学園も総長はクリスチャンだし、ちやうどわれわれと同じ時代に京都大学を出られて、YMCAでキャンプなんかよく一緒

にやつた。だから、非常に共鳴するところがある。それがまた新しい形式でやつておられる。偉いと思ひますよ。

津下　同志社の教育の特徴としても一つ。やはり国際理解とか国際協力。そういうものを植へつける、そういう大きな人物を造る教育。そういうものが教育の特徴にはいつてもいいんじゃないかと思ひます。

原田　それはちやうど申し上げたいと思つてゐたことなんです。同志社はミッション・スクールではありませんけれども、初めから国際的な色彩の強いところで、そしてまた、いままで先輩に多くの国際人を出してゐますよ。それで、今後一般の日本人に欠けてゐる国際感覚を、まずもつと植へつけて、そして日本の学校ではこれだけの国際教育を行なうところはないという学校になつてもらひたい。

実はごく最近のことですが、同志社を出てアマーストとスカラシップ——コロンビア大学でスカラシップをとつて歸つてきて、京都産業大学で教へてゐる岡島貞一郎という人がユネスコの職員になりたいから紹介をしてくれんかという話なのです。実は国際連合に

対して日本は第六番目に大きな分担金を出している国なんで、その分担金に相当した職員を国際連合に入れることができるんですが、その半分もはいていない。ぼくは個人としてできるだけそういうところにはいたい人がふえてくれることを希望しておつたんで、さっそく外務省に連れて行き、私の旧部下の田村大使（ユネスコ理事会の日本代表者）に紹介したら非常に喜んで、日本はまだまだユネスコに人をつつめる権利があるんだ。ぜひひとつ、はいてもらいたいということだったんです。ぼくは、同志社人からそういう国際人が出ることにすれば、非常にいいと思って喜んでいるのです。津下夫人のお話のように、国際的な接触をできるだけ多くする。ESSなんか、このごろどうしているかわかりませんが……。

秦 三千人ぐらいいるんです。

原田 昔はぜひぶん日本全国の英語演説のコンクールで同志社が優勝したが、最近はあるまり振るわなくなった。あれをとるだけが能じゃないんだ……。

津下 ESSに三千人いらっしやるかもしれませんけど、そういうことで活躍してて、

果たしてそれが非常に役に立つ英語を身につけられるかどうかというのは疑問だと思えますよ。もっとも、インテンシブ・トレーニングをしないと。ESSグループにはいつて、そして、たじょうずに英語の演説ができた、お互いが英語でしゃべったり、そのくらいのことはとてもとも国際場裏に立てない。ですから、やっぱり同志社では、もっと、インテンシブな英語のトレーニングをしてはどうかと思えます。語学校でもおこしえになつて、ほんとのインテンシブ・トレーニング、一対一でキャンキャンやって直してもらつとか、いいシステムをもつたLLで、ほんとうに強い訓練をもらつというようなことをしないとだめでございますね。

秦 そういう点は、津下さんの言われることは、まともに受けられない立場にいまあるでしょう。つまり単位をとるというような、そういうところに力を入れて、俗なことばでいえば、ものにする、英語をマスターするといふような形にけつきよくなる訳ですね。それに対してはどうも現在の文学部のほうでも、その他でも、いわゆる第三の外国語もやりますけど、みんな単位につながる問題で、そ

れに集中するもんだから、単位さえとればザツオールだといふうなことになるように思いますね。

ブラッシュ それは英語だけではなく、英語は文学のためとか、英語のための英語なんですよね。そしてキリスト教もキリスト教のためのキリスト教なんですよね。これをかえて生活のためのキリスト教であり、生活のための英語といふふうにして人間が中心になった生活のために持つていく教育というものが一つの教育の問題です。教育というものとはにかく頭へ入れ込めばいいという考えがいかなんと思うのです。やはり生活にいかんそれうまく活用さすか。かりにレコードを三千枚持つていても、鳴らさない限りはレコードの価値がない訳です。だから問題はそこなんですよね。実際に活用さすこと。

津下 ガールスカウトが海外にこどもたちを派遣するんでございますけど、悲しいかなもっとことばができれば、どれだけの友情を深めることができるかと思えます。悲しいかな機微に触れることができます。文化の交流もなかなかできません。

秦 それで語学教育の欠陥を補うためには

さきほども原田さんが言われたように、やはり全寮制ですね。幸いにして同志社は、短期大学ですけど、やろうということになっている訳です。土地もありますし、それから、いまのところ女子大もその気になっていますから。そうするなら私、短期大学でもいいし、それが四年制にまた変わるかもしれませんから。

津下 全寮制ぐらい大げさになさらなくても、たとえば、ベルリッツスクールというのがございますね、語学校ですけど。あらゆる語学校に首を突っ込ませてだめだったこともあるんですけど、ベルリッツスクールに行ったら、ほんとにものになりましたの。それはシステムがとってもよくて、いいのは先生がぜんぶ本場の専門家なんです。先生が休みでも、代わりの先生が前のレッスンで終わったところからすぐつなげるようになっている。そして、個室で、それを校長先生が盗聴できるようにしていて、たいへんきびしい教え方をしている。ほんとうにものになるんですよ。

ブラッシュ 日本では語学というものが目の勉強になっているんです。だから国語の学

問でなくて、国文の教育なんです。だから英語でも、あるいはドイツ語でも、外国語というものを、目で習うために、むずかしい本は読んでも会話ができない訳ですね。それでは、日本語を耳で覚える勉強をやらなくちゃいけないと思う。目だけでなく。

司会 きょうは、非常に教育の内容を掘り下げていただいた、いいお話を伺ったんです。がけつきよく同志社教育とか、キリスト教主義教育というのは、特徴がないとどうしてもいかなということですね。それでどういうふうな特徴をつくったらいかなというご意見とか、あるいは、そういう教育をするには、いい教育者を養成するとか、あるいは、いい教育者を同志社に迎えるというようなことがいばばん中心になるんじゃないかと思うんですが、そういうことについて同志社教育を特徴づけるにはどうしたらいいかというようなことを、ひとつお聞かせ願いたいと思います。

一貫教育の完成を……

田島 学校当局への希望とか期待ということとは、私自身が現在学園理事会の一員でもありますので、自分への注文にもなる訳でして

理事としての今後の私の気がまえにもしくちやならんと思うんですが、百年を迎えるにあたっての取り組みべき問題としては、私学の経済的基礎づけのためには基本財産を豊かにすることが必要です。これは同志社ばかりじゃなくて、全私学がそうだと思うんです。岐阜県の山林ですか、同志社も植林事業に着手しましたけれど、これなんかはヒットだったと思うんです。社会事業に対する寄付金は現在でも無税の扱いになっていますが、学校に対する寄付も、法人・個人とも全額必要経費で落とすことができるように、全私学が一丸となって大蔵当局に働きかけることが必要です。そして私学の基本財産を強固にすることが大切です。次に、同志社のこれからの課題ですが、秦理事長が毀誉褒貶を省りみず、田辺に三十万坪という貴重な校地を確保しましたが、これをいかに有効に活用するかの問題に今後真剣に取り組まなければなりません。私見では、大学の主力をここに移し、今出川の校地は女子大とか女子の高校・中学、あるいは男子中学、幼稚園などにあてるとともにさきほど原田先生がおっしゃった、同志社の一貫教育に欠けている小学校をここに新

設したらどうだろうかと思っています。そして総合学園の長所を生かし、一貫教育を完成させようにしたいと思うのです。

最近の学生は、受験のための入学試験技術に浮身をやつしていますけれど、一貫教育が完成すればそういう片寄った勉強じゃなくて基礎的勉強に頭を十分突っ込めますから、教養ある人間ができるんじゃないでしょうか。

もう一つ、同志社では各学校ごとに独立採算性をとってありますために、よその学校をあてにしない。また本部にたよるといような弊害は最近なくなっていきますけど、他面、自分の学校本位になって、総合学園の総合性ということを忘れる傾きが生じてきていると思うんです。やはり総合学園の総合性を伸ばすためには、独算制にこの際修正を加える時期がきたのじゃないかというふうに思っています。

津下 さきほども出ましたが、小学校をつくるといことは大賛成で、そしてやはり幼稚園から大学まで一貫教育をする。そして成績ばかりに人間の価値を認めないで、やはりその個性を大事にしてあげる。たとえばその

人がクラスに非常にいい雰囲気をもたらすこともあれば、それはもうすでにその社会に大きな貢献をしているのですから、そういったようなことをよく見て、こどもを価値づける。そして学校全体が精神面豊かな価値観をもつ。これが大事だと思います。そして田辺のほうで理想郷が生まれることを望んでおります。

原田 私は同志社から、やっぱり財界、政界、官界と、いろんな方面に出てほしいんですが、政界にわりあい少ない。いま三人で、しかも二人はご婦人に代表されている。男としては非常に恥ずかしいことで。政界にひとつ出てもらいたいということ。

それから教育家をどう養成するか。同志社精神をずっと継続していくには、やはり、できれば同志社で教育された人が中心となって将来同志社を背負っていく人をつくっていただきたいということですね。これをわれわれは念願している。

それからもう一つ最後に、校友の子弟の入学の問題。これはだいたい教授会あたりで反対があるそうですが、私はやっぱり同志社の教育というものは、同志社ファミリーというふ

うに、一つの大きなファミリーに属しているものなんじゃないかと思うんです。慶応なんか、聞くところによると、慶応出身者のこともなんかはだいたい特典を与えているとか。またさっきの一貫教育の中で一つ問題があるのは、ずっと一貫教育で、いわば入学試験なくして上へあがれるもんだから、学校に出てこないやつがいるんだそうですね。そんなのは上にあげる必要はない、ほうりだせばいいんです。それよりも校友の子弟なんかで、どうしても同志社の教育を受けさせたいというものがあるなら、どうぞ入れてやって、きつすいの同志社人というものをつくっていただきたいというのが私の日頃の念願です。

同志社人による教育を

ブラッシュ いま原田先生がおっしゃったようなことを私も希望いたしておりますが、けっきょく同志社の教育は、同志社人であることができれば、これに越したことはない。学校を出ても同志社に残ってもらうという教育をやると同時に、その人のために一つの予算をとっていただいて、その方が同志社を出られたら、アメリカとかヨーロッパに行っ

て、特殊な勉強を三年間みっちりやって、また同志社にもどってくる。日本にはたしか、大学が三百九十いくつあるはずなんです、

ドイツではぜんぶで五十九なんです。それがふえない訳は、学校をつくっても先生がない。だから先生の教育をやらなくちゃならない。同志社は同志社の先生をつくるために、一つの予算をとるということ、もう一つお願いしたいことは、少なくとも同志社人は学校を出たら、どこの会社にはいるということ。第二の問題にしていきたい。ヨーロッパではどこの会社にはいるということは絶対に考えていません。それよりも職業を身につける教育、これは日本ではあまりやっていない。専門学校は別ですけど。

平山 さっきいろいろ語学の教育の問題が出てましたけど、私どもの業界においては、ご承知のようにテレビのダンピング問題等で非常に揺れています。また繊維の問題なんかとからんできて、輸入規制の問題等非常に関心がむこうに動いておりますし、また業界の今後の成長というものも、対米市場にかかるとウェイトは大きいものがあります。これまでの電機業界の発展の状況を見えますと、

やっぱり海外にマーケットを開発したということが、非常に大きな発展の要素になっている。

たまたま最近アメリカにおいて、保護貿易主義が台頭してきた。日本の電機の業界はこれがためにいろいろアメリカからさかんに攻撃されておる訳です。われわれの業界に関連する人はもちろんのこと、出先の政府機関の人たち、また新聞社の特派員のかたがたも各社ともお出しになっていられるんですが、その実状をつかんでの報道がない。情報不足のままひじょうに不利な情況がどんどん築きあげられてつある。去年あたり、うちの記者がやっぱりワシントンの公聴会に出ているんです。公聴会のムードを見ると、次から次に「電機」、「電機」。それから「日本製品」という言葉が飛び出している。これがどうして外務省、通産省、あるいは日本のメーカーにはいらないのか。これをずっと調べてみますと、米国駐在の日本のメーカーの社員のかたがたは、商品を一台中でもたくさん売り込むことで精一杯でこんな方向にはテンデ頭が集中していない。なるほどワシントンには優秀な記者が各紙から出ている。ところが出先

の記者諸君も、現地側からのニュースを見てそれに少し味つけてアレンジしようなものを日本に送っている。政府機関の人たちもそういうところに一人もお出になっていない。そういうふうなことのいちばん大きな原因は、やっぱり語学からきているんです。語学の相当な人がなぜ役に立たないのか。役に立たないということもないんでしょうけど、やはりほんとうに生かされていない。その原因をさぐっていきますと、やはり語学の教育というのは高等学校くらいからやってないとはんとにむこうの人たちと同等に話をしにくい……。そのことからやっぱり語学というのは現地で手がけていないと本当の話はわからないのではないのでしょうか。

私はこのあいだ「同志社時報」を拝見してましたら、新島先生は一八七四年（明治七年）十月初旬ヴァーモント州のルトランドで開かれた、A・B・C・F・Mの総会でキリスト教主義の学校を設立する計画をニューヨークのキリスト教徒の義侠心に訴えてそれが動機となって同志社を設立した。こんどは日本のほうから、アメリカに大学をつくってはどうか、というふうな話が出ていまし

た。大学よりむしろ私は、でき得るならお金のかからない高等学校くらいをつくって、早くから国際人を養成することをやられるというふうな考え方も非常におもしろいんじゃないかと思うんです。

津下 エクスチェンジ・ステューデントズをなさったいかがですか。

ブラッシュ それができればそれに越したことはないと思います。

津下 世界平和のために、お互いの理解を深めるために、外国からのこどもを同志社で預かり同志社から外国へ出したこどもの家で泊める。そして同志社の授業料は預かった家がお出しになって、そのかわり、そのお子さんは外国へ行って、そのトイシオンはこの家庭で出していたくという交換をして、そしてポイントとかなんとかということには関係なく、一年とか二年とか、損をするというつもりでもないでしょう。長い人生の上にはうんと役に立つのでございますから……。

ブラッシュ 私もそれは考えていたんですけど、ヨーロッパ内ではそれは簡単にできません。これは学生同士がしょっちゅうやってい

る訳なんです。日本でドイツの学生がアルバイトで交換をやった場合に、日本にくると朝のみそ汁はいやだとか、それからご不浄が洋式でないと困るとかいう、そういう一つのアコモデーションを考えた上でないと、教育だけのためというのは非常に表はきれいですが、そういうファミリーを選ぶということを学校でやらないと……。

津下 そうですね。一年や二年のあいだは損をするというつもりでよいのではないでしょう。他の意味で決して損にはならないのですから。

秦 いま、アーモストでは新島スカラシップがあつたり、かなりやっているんですが、最近ちょっと心配になることは、紛争以来、アメリカからということを日本で気持ちよく歓迎しない。そういうネットワークがありますが、アーモストと同志社のことです。私は先生も学生もエクスチェンジをやつたらいいだろうと思つていますが、これはまもなくチャネルがそろつちと思ひます。いままで、少なくとも過去一年間は、まだ紛争の余燼がありましたから……。

司会 どうもありがとうございました。

常にお話をいただいて、ことに教育の問題、本質的な問題だとか、あるいはまた将来の展望は同志社全体が一つのファミリーなんだから、そういうことを積極的に考えるべきで、また同志社人による同志社教育をやるためには、同志社のいい先生をもつと育てるようには予算をとるとか、いろんなご意見をいただきました。理事長もいっしょにいますし、またわれわれも学校におりますので、そういう形で啓蒙していただき、少しでもそういう同志社の特色ある教育を実現するように努力させていただきます。

本日は長いあいだいろいろご意見いただきまして、どうもありがとうございました。

(一九七、二、十七 東京・電波新聞社本社にて)

